

ジオパークとは「地球と生命とのつながりを楽しく学べる地域」のこと。
洞爺湖有珠山ジオパークは洞爺湖や有珠山を中心に「変動する大地との共生」を学べる地域です。

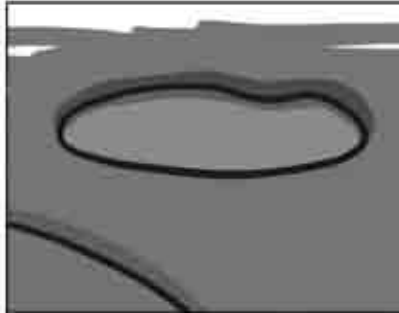
洞爺湖有珠山ジオパークの大きな見どころの一つ、洞爺湖。周囲43km、最大深度180m、面積70.7km²のこの湖は、約8.2km³の水をたたえる巨大な水がめでもあります。今月は洞爺湖の成立ちと、洞爺湖を巡る水の物語について紹介します。

洞爺湖のないたち

(「洞爺湖有珠山ジオパーク野外学習テキスト」より転載)



約11万年前の大噴火。
火砕流が流れ広がった。
(噴火前には火山はありませんでした)



噴火でできた穴に水がたまり、
洞爺湖が誕生!



約5万年前、湖の中央付近で
火山活動を繰り返かえてできた
中島



秋のソウベツ川。サクラマスが遡上します。

洞爺湖に流れてくる水

洞爺湖に流れ込む川は、大小合わせて40本ほど。湖の周囲の山や台地から水が流れ込んでいます。

洞爺湖町財田地区から洞爺湖に流入するソウベツ川もその一つ。川沿いは財田親水公園として整備され、洞爺財田自然体験ハウスと併せて、洞爺湖周辺の自然学習びつりの場所です。毎年秋にはサクラマスの遡上が見られます。

では、こうして洞爺湖に流れ込んだ水は、どこから流れ出しているのでしょうか?

洞爺湖から流れていく水



自然の流出口、壮瞥滝。
滝の近くまで歩いて行けます。



虻田発電所。海と湖の高低差(84m)を利用し、昭和14年から水力発電が行われています。

洞爺湖に集まった水は、サクラマスやヒメマス、コイ、ワカサギ、フナ等の生き物を育み、また飲料水としても利用されています。さらに、噴火湾に近く、海と湖の高低差があることから水力発電にも利用されています。

洞爺湖の水は、壮瞥町滝之町にある壮瞥滝や、洞爺湖町にある虻田発電所の水路を通して、やがて噴火湾へと流れこんでいます。

命を育み、生活を支える水。
ジオパークで、水の物語をたどってみるのも、面白いかもしれません。